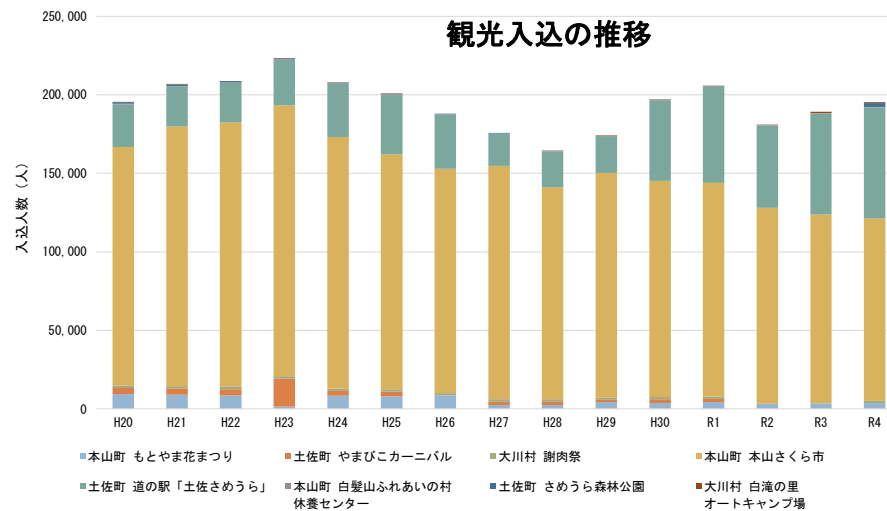


『早明浦ダム周辺地区 かわまちづくり計画（二期）』の概要

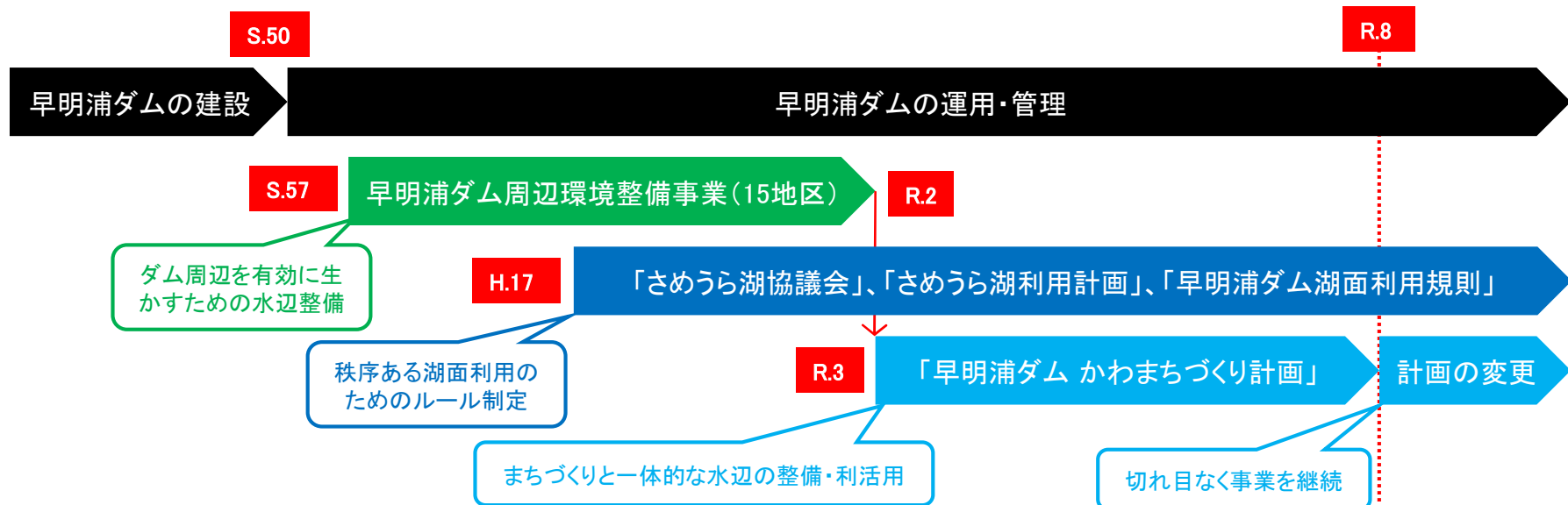
早明浦ダム周辺地区の立地条件

- 河川：一級河川 吉野川水系 吉野川 早明浦ダム
- 市町村：高知県 本山町、土佐町、大川村
- 人口：本山町 3164人、土佐町 3493人、大川村 349人
合計 7006人（令和6年7月末時点）：少子高齢化が進行、高齢化率52%
- 位置：高知県から徳島県を経て紀伊水道に注ぐ一級河川吉野川上流にあり、高知市の北方約20kmに位置する。
- アクセス：自動車：四国の主要都市から最寄りの大豊ICまで1時間30分以内
- 自然環境：多雨地帯にあり、豊かな森林環境に育まれた自然生態系を形成
- 主要産業：農業（ブランド米、れいほく野菜）、畜産（あか牛、黒牛、地鶏）
林業（嶺北材、木工製品、自伐型林業）
観光（自然・景観を活かした体験型観光、さめうら湖の利用）



早明浦ダム周辺整備の経緯

- 昭和50年：吉野川沿いの洪水災害の軽減及び水道・工業・農業用水の確保を目的にダムを建設・運用開始
- 昭和57年：「水特法」適用対象外で周辺が未整備であったため、地元2町1村からの強い要望を受け、「ダム周辺環境整備事業」として水辺整備を開始。令和2年度までに15地区で整備を実施。整備個所では地域が主催する様々なイベントが実施されるとともに、ダム湖へのアクセスが向上し、ボートでの釣りの他、カヌー、SUP、水上バイク、ジェットスキー等、多様な湖面利用が行われている。
- 平成17年：さめうら湖の有効活用と環境の保全、水難事故等の防止を目的に、湖面利用に関する関係機関によって「さめうら湖協議会」を設立し、同時に「さめうら湖利用計画」を策定して、秩序ある利用を行うためのルールが制定され、同ルールに沿った湖面利用が行われている。
- 令和2年：地元自治体の本山町、土佐町、大川村の申請によって「早明浦ダム周辺地区 かわまちづくり計画」を登録し、令和3年度から現在まで継続して水辺整備事業を行い、地元自治体、NPO法人、活動団体、民間企業などが、さめうら湖や下流吉野川を活かした積極的な水辺利用に取り組んでいる。令和7年度末で現計画による整備が完了するが、これまでの取組効果の継続と更なる効果の発現には切れ目なく事業を継続することが求められ、かわまちづくり計画を変更する。



『早明浦ダム周辺地区かわまちづくり計画（二期）』の策定の背景

令和2年度に『早明浦ダム周辺地区かわまちづくり計画』が登録され、関係自治体・河川管理者・地域の活動団体などが連携しつつ、早明浦ダムと下流吉野川を活かした地域づくりが進められている。

現在の『早明浦ダム周辺地区かわまちづくり計画』の内容（令和2年度に登録）

【コンセプト・基本方針】

「5つの駅（湖、川、村、森、道）を拠点とした早明浦ダム周辺地域をつなぐかわまちづくり」

○3つの水辺拠点空間（湖の駅・川の駅・村の駅）と2つの連携拠点空間（道の駅・森の駅）を強化し、早明浦ダム、吉野川の水辺利用の促進を図る。

○拠点空間を核に、早明浦ダム周辺の豊かな自然資源とアクティビティのネットワーク化を図り、周辺地域全体の観光促進、活性化を目指すとともに、水源地域の役割や重要性の周知にもつなげる。

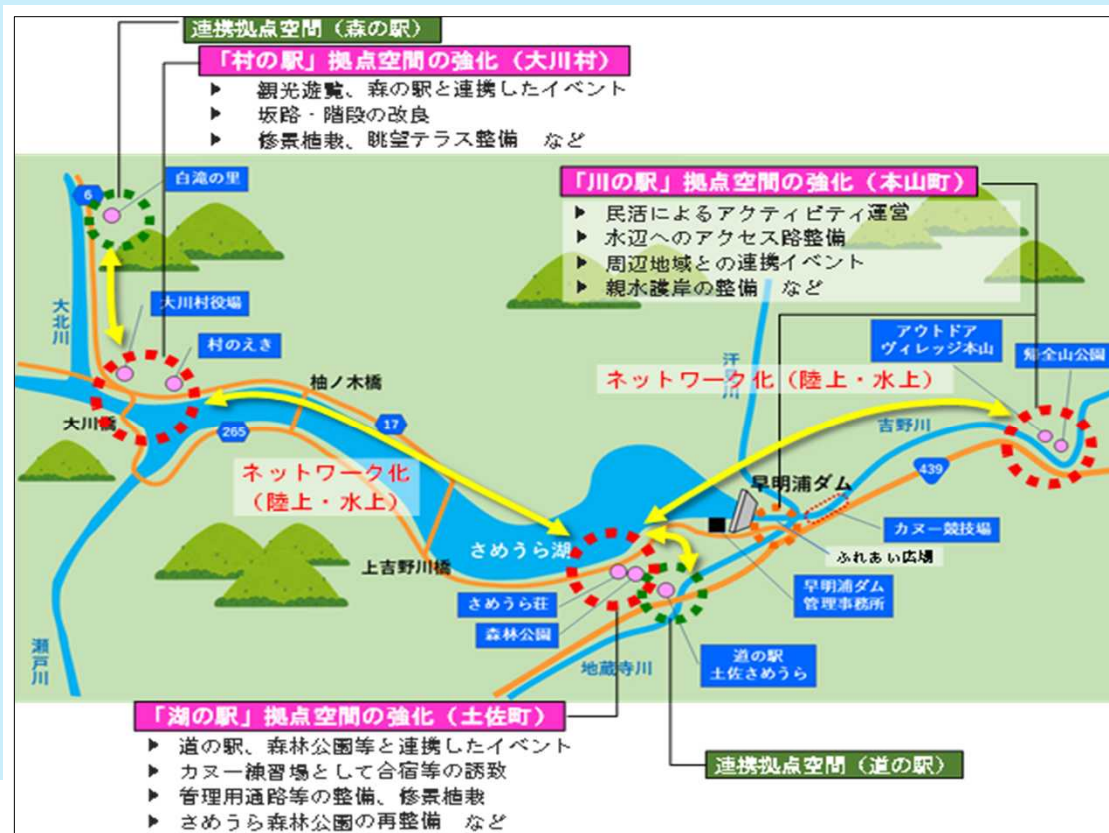
【施策概要】

○ソフト施策

- ・ウォータースポーツ体験、競技、環境学習の場としての多様な取り組み
- ・インバウンドも含む国内外の競技者から一般利用まで幅広い利用を促進
- ・ダム湖、上下流河川周辺の拠点のネットワーク化
- ・水源地域の大切さや魅力を周知する学習を取り入れた体験プログラム

○ハード施策

- ・水辺空間利用等を促進するための環境の充実
（坂路・階段の改良、植栽や休憩施設整備、
一体利用のための施設整備）



『早明浦ダム周辺地区かわまちづくり計画（二期）』の策定の背景

現『早明浦ダム周辺地区かわまちづくり計画』の実施状況・成果

◆水辺利用が活発化するとともに、新たな利用方法なども拡大し、 嶺北地域全体として多様なニーズに対応できつつある。

- 『本山町』：吉野川・「川の駅」周辺でラフティング等のレジャー、体験学習の利活用が充実し、堤体下流広場では交流イベントが継続開催。
- 『土佐町』：水辺の整備によって、民間企業によるカヤック、SUP等の体験レジャーの利用が拡大するとともに、カヌー競技の指導、選手育成、合宿等利用にも取り組んだ結果、「スポまち！長官表彰2023」を受賞。「さめうら荘」「テントパーク」の整備・運営で宿泊利用が充実。
- 『大川村』：「村の駅」周辺で観光遊覧船が定期運航。湖面を活用したワカサギ釣りを拡大。桜並木等で湖岸等の景観を整備。
- その他利活用などの取組：工事中のダム堤体の見学体験ツアー、湖岸道路のサイクリング利用、湖面利用ルールによる安全対策の実施、等

◆自治体・ダム管理者・河川管理者・活動団体・民間などの 多様な主体による取り組み、連携・協働が進んでいる。

- 「土佐いほく観光協議会」によって嶺北地域全体の観光、広報PRが実践
- 複数の団体（一社、NPO、民間）によって水辺利用、観光事業が展開
- 早明浦ダム周辺水辺利活用促進協議会で「かわまちづくり計画」を推進

関係自治体の上位計画・熱意など

『本山町』：堤体左岸・直下

- カヌー利用などを通じて交流人口・入込客数（宿泊滞在・リピーター）を拡大する。
- 左岸展望台をキャンプ場に再整備して、宿泊滞在利用を促す方針が本山町議会で説明されている。

『土佐町』：湖の駅

- 本山町と土佐町を併せて、スプリントとスロームが出来る「カヌーのまち」として、「レジャー」と「競技」の両面からのカヌーによるまちづくりを推進する。
- 土佐町が「レイクタウン」を整備・運営し、「さめうら湖」を活用したスポーツツーリズムを推進している。
- 『スポまち！長官表彰2023』を受賞し、「スポーツ・健康まちづくり推進事業」を展開中。

『大川村』：村の駅

- 早明浦ダム湖面の観光利用を促進するとともに、災害時には水上動線として利用する。
- 吉野川下流の「NPO新町川を守る会」と連携して観光遊覧船の定期運航を実現した。

自治体の意向の実現

『現計画』における課題と「計画変更」の必要性

○『湖面利用の増加への対応』

- ・さめうら湖でのカヌー、SUP等のレジャーやスポーツとしての競技、練習などが活発になり、湖面利用のための湖岸ヤードの拡張や安全対策等が求められる。

○『遊覧船事業の定期運航』

- ・大川村の活性化を支援する「観光船プロジェクト」がクラウドファンディングで広く資金協力を得て実施されており、渇水による水位低下時等においても定期運航が可能となり、事業を将来にわたって継続するための水辺整備が求められる。

○『交流人口を増加させるための施設・態勢の強化』

- ・交流人口の更なる増加により地域の活性化を推進するためには、宿泊滞在利用やリピーターを受け入れる施設や態勢を強化することが求められる。

地域の活性化に向けての取組の必要性

- ◆現かわまちづくり計画の成果を継続しつつ、更にダム周辺利用を拡大・充実するための課題に応える新たな取組が必要である。

- ◆水辺の拠点利用の成果を地域全体へ波及・拡大させることが必要である。

拡大・充実

『かわまちづくり計画（二期）』の方向性

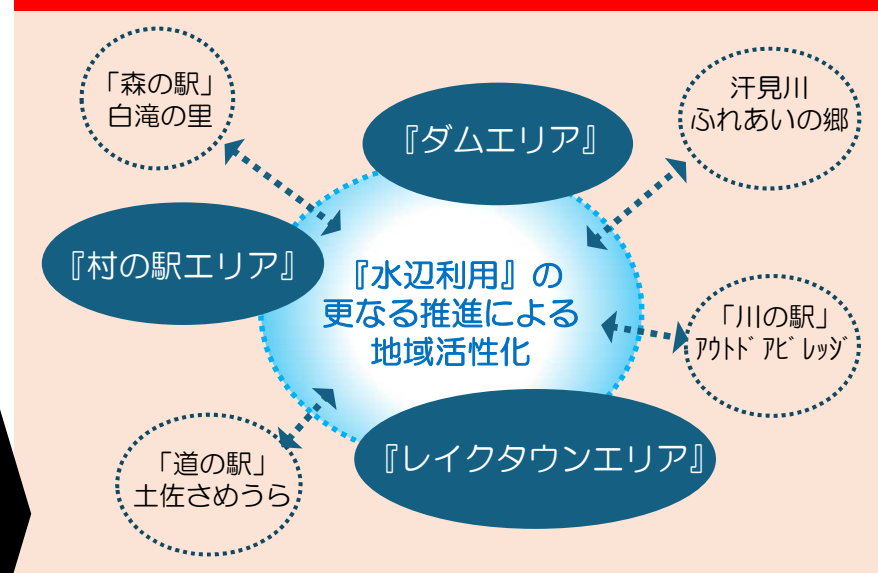
令和2年に『現 早明浦ダム周辺地区かわまちづくり計画』が登録され、関係自治体・河川管理者・地域の活動団体などが連携しつつ、「5つの『駅』のネットワークによる地域活性化」に取り組んできたが、令和7年度に事業が完了する。このため、現計画の取組成果を継続しつつ、『地域最大の資源である「水辺利用」の更なる推進による地域活性化』を図るには、**現かわまちづくり計画を変更し、『かわまちづくり計画（二期）』に取り組むことが求められる。**

現『かわまちづくり計画』（R7年度完了）



計画の変更

『かわまちづくり計画（二期）』



【現計画の成果】

- 「駅」のネットワーク化によって、地域全体で活性化に係る多様な取組が実行されている。
- 各拠点においても利活用が活発化し、利用者も拡大しつつある。
- 活動団体・関係機関の連携・協働によって、新たな観光ツアーの造成やイベント開催、遊覧船運航、カヌー体験等の湖面利用が進んでいる。

【かわまちづくり（二期）の方向性】

- これまでの取組を継続しつつ、地域最大の資源であるダム湖・ダム下流の**水辺利用**を更に推進する。
- ダム湖の**利活用を活発にするための施策**（ソフト・ハード）に取り組む
- 地域の観光拠点等との連携により、水辺利用による**成果を地域に波及・拡大**させる。

早明浦ダム周辺地区かわまちづくり計画（二期）

現かわまちづくり計画の成果を継続しつつ、周辺地域の更なる活性化と賑わいの創出を目指し、利活用ニーズが高まっている早明浦ダムの湖面と周辺環境を積極的に活かした「スポーツ」「レジャー」「宿泊滞在」「インフラツーリズム」等の推進に取り組む。

【コンセプト】 『水辺を活かしたスポーツ&レジャーのかわまちづくり』



【基本方針】

『水辺利用の活発化』

ダム堤体、ダム湖、湖岸を有効に活用してスポーツやレジャー、観光交流の取組を充実して活発にする。

『宿泊利用・体験活動の充実』

ダム周辺地域への来訪者の宿泊利用・体験活動を拡大し、滞在型の交流人口と観光消費を増やす。

『地域全体への活性化の波及・拡大』

3つの水辺拠点エリアのネットワーク化と周辺施設との連携、一体的な施策、情報発信などにより、上流地域と周辺地域全体の活性化を目指す。

早明浦ダム周辺地区かわまちづくり計画（二期）

【主な取組】（早明浦ダムかわまちづくりの「ウリ」）

- ダム湖、ダム下流における水辺のスポーツ利用とレジャー利用
- スポーツ&レジャーと連携した宿泊滞在型利用

ダム湖、ダム下流の水辺の活用
『スポーツ利用』
『レジャー利用』

【スポーツ利用】

- 競技カヌー（スプリント、スラローム）、選手育成
- 競技大会の誘致・開催



【レジャー利用】

- カヌー、カヤック、SUP、ラフティングなどの体験



連携

スポーツ&レジャーと連携した
『宿泊滞在型利用』

- ・スポーツ合宿（強豪大学など）
- ・カヌー競技大会の開催
- ・アクティビティ体験者の宿泊
- ・キャンプ場などの宿泊施設充実

官民の
連携・協働

効果

【波及効果】

- 宿泊滞在型利用の増加
- 地域の交流人口の増加
- 観光振興による地域の活性化

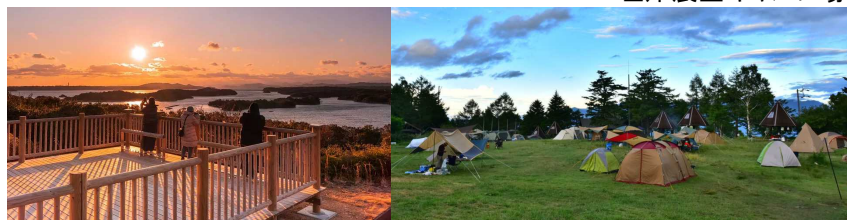
早明浦ダム周辺地区かわまちづくり計画（二期）（ソフト施策）

【ダムエリアのソフト施策】

名称など	ソフト施策の実施内容（案）	実施主体
左岸展望キャンプ場の運営	○左岸展望台を活用して、早明浦ダムを訪れる観光客などの多様なニーズに応える宿泊施設として、湖畔の優れた景観を楽しめる展望キャンプ場を運営する。 ○ダム周辺の周辺施設や環境を活かした滞在型の観光利用を誘導する。	本山町
ダム堤体のインフラツーリズム	○工事中しか体験できない早明浦ダムの再生事業（～2028完成予定）の現場を巡り、非日常的な体験を通して早明浦ダムへの理解が深まるダム観光を行う。 ○工事完了後もダムの見学体験と、ダムカレー作りやダムを見下ろすキャンプ場での宿泊、湖面利用などを組合せた多様な見学プログラムを提供する。	土佐町、本山町、 土佐れいほく観光協議会、 土佐町スポーツコミッション、 アウトドアビレッジ
右岸広場の観光活用	○ダム再生事業の完成後（2028以降）に、ダム右岸の広場を活用し、ダム見学を誘致する。 ○早明浦ダムのインフラツーリズムや湖畔の散策利用、サイクリング利用などの基地に広場を利用する。	土佐町、 土佐れいほく観光協議会、 土佐町スポーツコミッション
堤体下流の吉野川の活用	○吉野川の清流・急流など、様々な表情の水面を多様なアクティビティで体験できるメニューを取り揃え観光利用を誘致する。 ○吉野川の利用拠点（駐車場、水辺アプローチ等）について、地域全体で有効活用できる仕組みづくり等を検討・調整する。 ○河川利用に必要な流量を確保するために、早明浦ダムの弾力的管理を活かして放流を行う。	土佐町、本山町、 アウトドアビレッジ、他民間
ダム堤体直下流広場の活用	○「やまびこカーニバル」「音楽・食フェス」「川下り（カヌー・ラフティング・筏）」など、ダム直下の環境を活かしたイベントを開催する。 ○河川敷の自由使用の範囲内で、地域への来訪者の駐車場需要などに活用する。	土佐町、本山町、 アウトドアビレッジ、他民間

【ソフト施策のイメージ】

左岸展望キャンプ場



吉野川活用

堤体直下流広場活用

インフラツーリズム



右岸広場観光利用
サイクリング基地



早明浦ダム周辺地区かわまちづくり計画（二期）（ソフト施策）

【レイクタウンエリアのソフト施策】

名称など	ソフト施策の実施内容（案）	実施主体
カヌーの選手育成、 合宿誘致	○カヌーアカデミーによる有望選手の育成や、強豪大学などのカヌー合宿の受け入れ態勢を構築し、カヌー競技やカヌー合宿に多くに選手が訪れるカヌーのメッカにする。	土佐町、 土佐町スポーツコミッション、 他団体
カヌー競技大会の開催	○スプリント競技コースを使った競技会・記録会、競技大会などを開催する。 ○新しいカヌー競技「カヌーマラソン」を導入し、大会の開催を行う。	土佐町、 土佐町スポーツコミッション、 他団体
ダム湖のレジャー利用 の拡大	○初心者が気軽にカヌー、カヤック、SUP等楽しめる体験会や四季の変化が美しいダム湖のカヌーツアー、カヌーからの釣り・野鳥観察等、カヌーの多様な楽しみ方を提供するプログラムを提供する。	土佐町、 そらみる
キャンプ場の充実	○テントパークの2期整備、3期整備により、様々なキャンパーを迎え入れるキャンプ場（RVサイト、ペットサイト、テントサウナなど）に拡充する。 ○ダム湖周辺の宿泊滞在利用を促す選択肢の多い宿泊機能を提供する。	土佐町、 土佐町スポーツコミッション

【ソフト施策のイメージ】

カヌー合宿・選手育成



カヌー競技大会



キャンプ場の充実



ダム湖のレジャー



早明浦ダム周辺地区かわまちづくり計画（二期）（ソフト施策）

【村の駅エリアのソフト施策】

名称など	ソフト施策の実施内容（案）	実施主体
観光遊覧船の運航	○「大川村ふるさとむら公社」が所有する12人乗りのポンツーンボートを使って、土日などに観光遊覧船を定期運航する。 ○一年間を通して観光遊覧船を運航し、渇水時でも水没した旧大川村役場を見学してダム建設の歴史を知る体験などを行う。 ○ダム湖から湖岸の風景などを鑑賞する「村の駅」「結いの里」を発着する周遊観光コースなどを運航する。	大川村、大川村ふるさとむら公社、NPO新町川を守る会
上流地域の湖面利用の推進	○村の駅の坂路、湖岸広場などを活用し、「湖の駅」と同じように、上流域における、湖面の利用基地に常時利用する。 ○湖面へのアプローチを利用し、釣り、カヌー、ボート、SUPなどの観光利用、体験学習、イベント開催を行う。	大川村、結いの里、大川村ふるさとむら公社、NPOさめうらプロジェクト
「ワカサギ釣り」の拡大	○釣り桟橋からの安全で容易なワカサギ釣りを拡大する。 ○嶺北高校やさめうらプロジェクトと連携し、冬季のダム湖利用を促すワカサギ釣りをPRするイベントを開催する。	大川村、結いの里、NPOさめうらプロジェクト、嶺北高校
「白滝の里」との連携	○「森の駅：白滝の里」の宿泊施設、飲食施設、マウンテンバイク競技等と「村の駅」の湖面利用を組み合わせた宿泊体験プログラムを提供する。 ○早明浦ダムの水源の森の保全活動、森づくり活動に、住民・行政・NPOが連携して取り組む。	大川村、大川村ふるさとむら公社
湖岸の魅力向上（修景、景観整備）	○村の駅の景観を向上させる修景木（桜など）の植栽を住民や観光客等の参加によって行う。 ○結いの里の斜面を花で修景する。	大川村、結いの里
「映え」スポットづくり	○写真の「映えスポット」や「恋人の聖地」登録などにより、若い女性やカップルなどの利用を発掘する。 ○エリアの上流などにも写真撮影の『映えスポット』を設け、観光遊覧船の運航との連携・活用を図る。 ○さめうら湖に架かるデザインの異なる橋を撮影スポットとして紹介する。 ○SNSなどによる情報発信や広報活動に取り組む。	大川村、結いの里

【ソフト施策のイメージ】



観光遊覧船の運航



ワカサギ釣りの拡大



湖面利用の推進



湖岸の魅力向上・修景植栽

早明浦ダム周辺地区かわまちづくり計画（二期）（ソフト施策）

【岸の道（湖岸道路）のソフト施策】

名称など	ソフト施策の実施内容（案）	実施主体
湖岸周遊道路 のイベント利用	○ダム湖の周辺を周遊するサイクリングコース、ランニングコースを設定するとともに、マラソン、サイクリングなどのスポーツイベントを開催する。	土佐町、大川村、 土佐町スポーツコミッション、 アウト・アビレッジ
湖岸散策路の観光利用	○湖岸を巡りダム湖周辺の景観や自然環境が楽しめるトレッキングルートをつくる。 ○レイクタウン周辺、村の駅周辺の散策路等を利用し、湖畔を散策・周遊できる眺望スポット、散歩道、散策コースをつくる。 ○季節の草花や星空、野鳥の観察などが気軽に楽しめる散歩道「〇〇の径」を設定し各施設とネットワークする。	土佐町、大川村、 土佐町スポーツコミッション
湖岸サイクリング	○ダム湖の周辺を周遊するサイクリングコースを設定し、ガイドツアー等の受け入れ態勢を充実する。 ○ダム湖周辺の拠点やビューポイント等を結ぶサイクリングマップなどを作成して周遊利用を誘導する。	土佐町、大川村、 土佐町スポーツコミッション、 アウト・アビレッジ
湖岸道路の夜間利用	○夜間のアクティビティーとして、漆黒の湖岸を巡る「ナイトハイク」や満天の星空ゆったりと楽しむ「星空観賞会」、光に集まる昆虫を採取・観察する「ライトトラップ体験」等、夜間の利用メニューを充実し、宿泊滞在利用を促す。	土佐町、大川村
湖岸道路の景観整備	○湖岸道路からの景観を向上させる修景木（桜・アジサイ・サツキなど）の植栽・記念植樹等を、住民や観光客等の参加によって行う。 ○湖への眺望の確保や湖岸道路の景観を維持・向上するための修景整備を行い、さめうら湖の美しい風景の活用を促進する。	土佐町、大川村

【ソフト施策のイメージ】



湖岸サイクリング



サイクリングマップ作製・PR



湖岸道路イベント：マラソン大会



湖岸散策

早明浦ダム周辺地区かわまちづくり計画（二期）（ソフト施策）

【湖の道（水上動線）のソフト施策】

名称など	ソフト施策の実施内容（案）	実施主体
緊急時水上輸送動線	○地震・自然災害などによる湖岸道路の閉鎖時には緊急の水上動線として利用する。 ○大川村とNPOさめうらプロジェクトで取り交している水上輸送協力に関する協定書に基づき、緊急時の水上輸送に取り組む。	大川村
湖面利用ルールの見直し	○湖面利用ルールを見直し、カヌー、動力船などが安全に使用できる環境を作る。 ○湖面利用にかかわるニーズ、現状、課題などを踏まえ、今後の湖面利用を安全かつ活発にするために、湖面利用ルール（「早明浦湖利用計画」「早明浦ダム湖面利用規則」）の見直し検討を行う。	さめうら湖協議会
安全管理	○カヌーアカデミーやカヌー体験利用に際して、水辺利用に関する十分な安全教育、安全指導を行う。 ○湖面利用者に対する安全利用の啓発と湖面利用規則の遵守の指導を徹底する。	土佐町スポーツコミッション、 さめうら湖協議会、 NPOさめうらプロジェクト

【ソフト施策のイメージ】



安全管理指導・訓練



安全パトロール

早明浦ダム貯水池の災害時等における緊急輸送等に関する協定書

大川村（以下「甲」という。）と特定非営利活動法人さめうらプロジェクトおよびシーバードさめうら（以下「乙」という。）とは、さめうら湖及び周辺で災害等が発生した場合、または災害等が発生する恐れがある場合（以下「災害時」という。）について、甲が実施する湖上における緊急輸送に関し、これに必要な船舶、資機材並びに労務等の提供について、乙に協力要請する際の事項について、次のとおり定めるものとする。

（趣旨）

第1条 この協定は、災害時において、湖上における緊急輸送等を確保するために、甲が乙に対して船舶による輸送等に関し協力を求めるときの必要事項を定めるものとする。

（協力要請）

第2条 甲は、災害時において、次条に掲げる内容を遂行するため必要があるときは、乙に対し協力を要請するものとし、乙は可能な限りこの要請に応ずるよう必要な連絡・調整を行うものとする。

緊急時水上輸送の協定書

早明浦ダム周辺地区かわまちづくり計画（二期）（ソフト施策）

【ダム周辺地域で連携して実施するソフト施策】

名称など	ソフト施策の実施内容（案）	実施主体
周遊、連携ツアーの造成	○カヌー、SUP、ラフティングなどを体験するスポーツ観光ツアーを運営する。 ○早明浦ダムのインフラツーリズム、水辺のスポーツ体験と宿泊体験、郷土色豊かな飲食などを組み合わせた嶺北オリジナルの体験を提供する。 ○カヌーとキャンプ、カヌーとサイクリング、湖上遊覧とサイクリング、ワカサギ釣り料理体験、サイクリングと淹めぐりなど、早明浦ダム周辺で体験できる多様な体験メニューを組合わせた魅力的な体験・交流プログラムを提供する。	土佐町、本山町、大川村、土佐れいほく観光協議会、土佐町スポーツコミッション、大川村ふるさと村公社、土佐さめうら観光協会、アウトドアビレッジ
協働・連携イベント	○地元住民や嶺北高校生など、地域に詳しい人がガイドを務める散策会、体験会などを開催する。	大川村ふるさとむら公社、土佐れいほく観光協議会、嶺北高校
スタンプラリー・ダムカード	○早明浦ダムかわまちづくりの対象拠点・駅、地域資源を巡るスタンプラリーを開催する。5つの駅を周遊する既往のスタンプラリーを更に拡大し、ダム湖周辺の多様なポイントを巡るデジタルスタンプラリーを行う。 ○嶺北地域の名産品や人気が高いレアなダムカード、ダム湖体験などをプレゼントし観光PRにつなげる。	さめうら湖協議会
観光情報発信の連携	○早明浦ダム周辺や嶺北地域の様々な観光・レジャー・スポーツ・交流体験等の情報を発信するWEBサイトのプラットフォームとして、「土佐れいほく観光協議会」のWEBサイトを運営する。	土佐れいほく観光協議会、他団体
上下流の交流	○下流の利水地域の若者等が水源地域に関心を持つような取組や交流の機会、企業CSRを活かした取組などに取り組む。	もりとみず基金

【ソフト施策のイメージ】

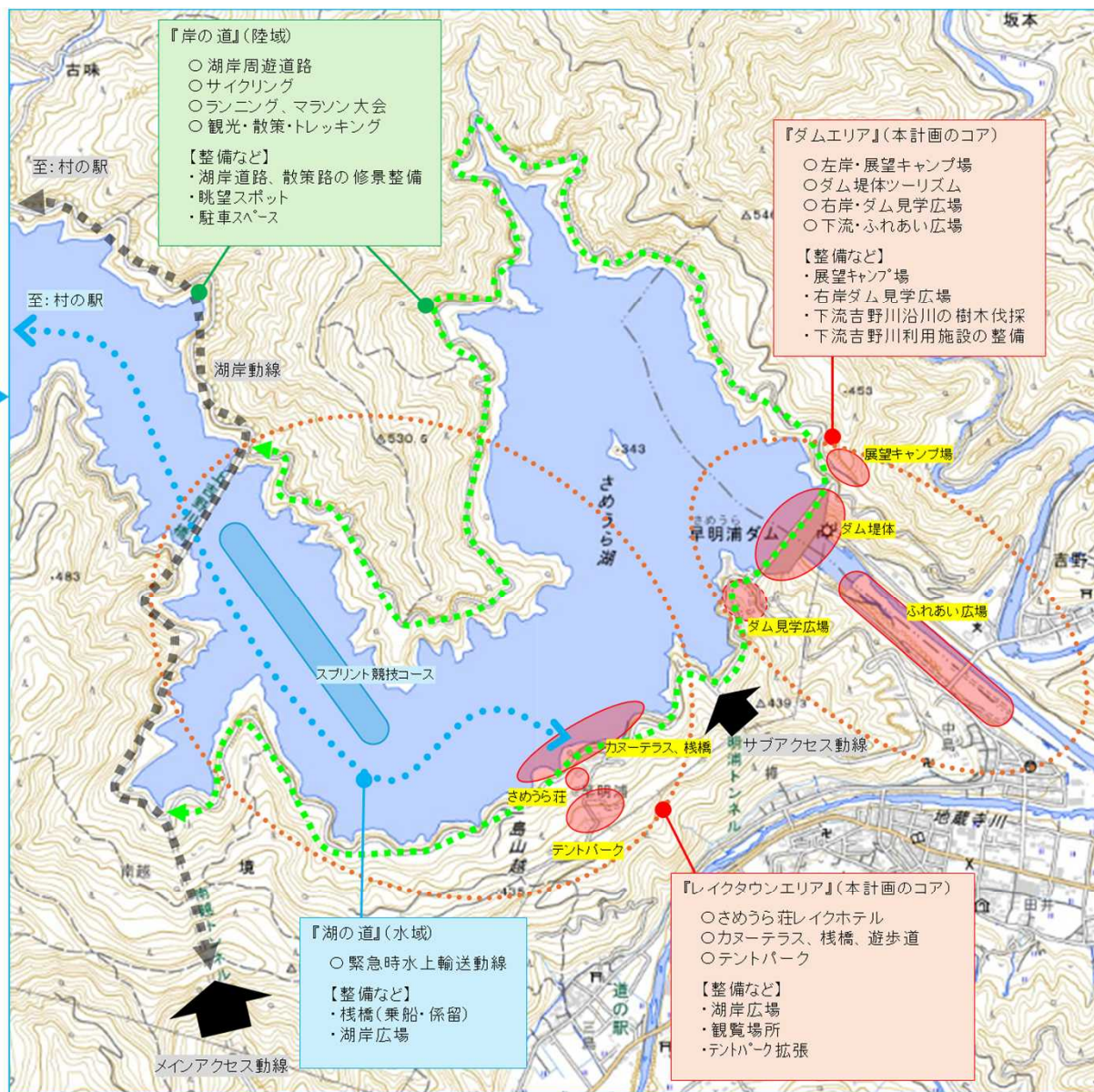
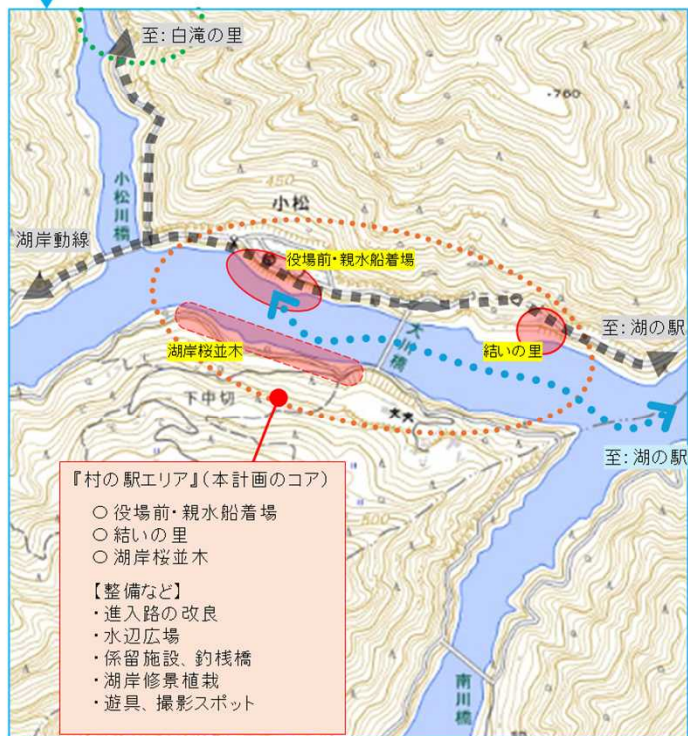
スタンプラリー、ダムカード



周遊ツアー等の造成、観光情報発信



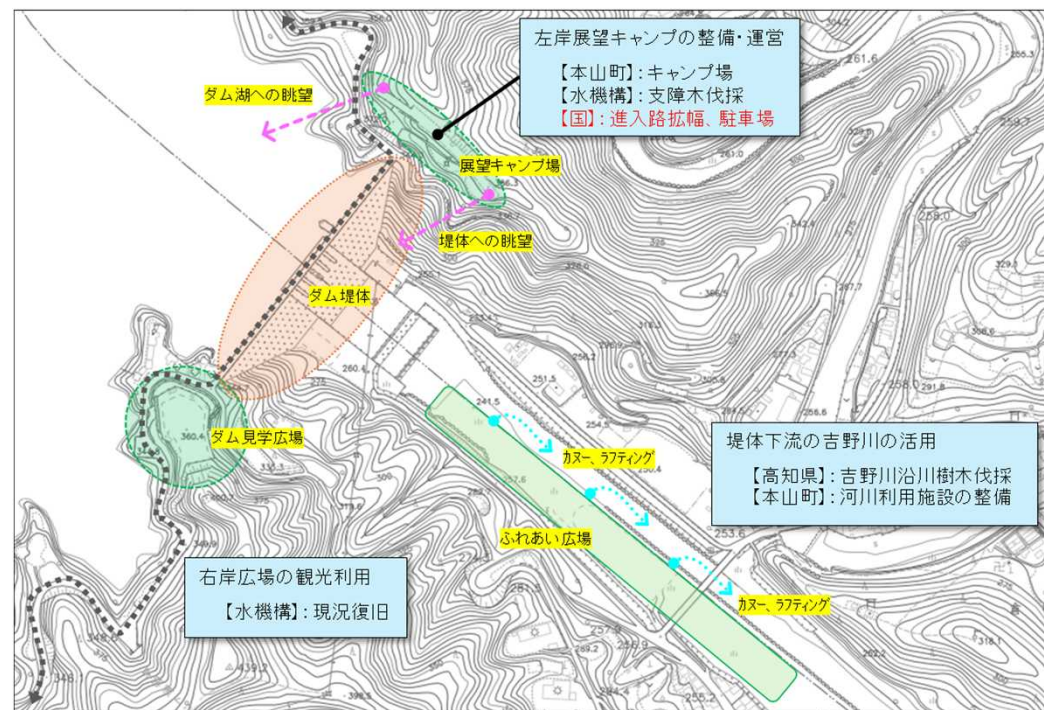
早明浦ダム周辺地区かわまちづくり計画（二期）（ハード整備）



早明浦ダム周辺地区かわまちづくり計画（二期）（ハード整備）

【ダムエリアの水辺整備】

名称など	整備内容	ハード整備と実施主体
左岸展望キャンプ場の整備・運営	○ダム湖・ダム堤体を眼下に望める展望のよいキャンプ場を整備する。 ○キャンプ場の整備に合わせて景観支障木の伐採と進入路の拡幅整備、駐車場整備を行う。 ○キャンプ場を運営し、周辺の施設や環境を活かした滞在型の観光利用を誘導する。	【本山町】: キャンプ場 【水機構】: 支障木伐採 【国】: 進入路拡幅、駐車場
右岸広場の観光利用	○堤体右岸の工事ヤードを現況復旧する。 ○現況復旧後のダム右岸の広場を活用し、ダム見学やインフラツーリズムや湖畔の散策、サイクリング利用などの基地に利用する。	【水機構】: 現況復旧
堤体下流の吉野川の活用	○吉野川の利用に際して支障となる樹木を伐採する。 ○カヌー等によって吉野川を安全で快適に利用するための環境を整える	【高知県】: 吉野川沿川樹木伐採 【本山町】: 河川利用施設の整備

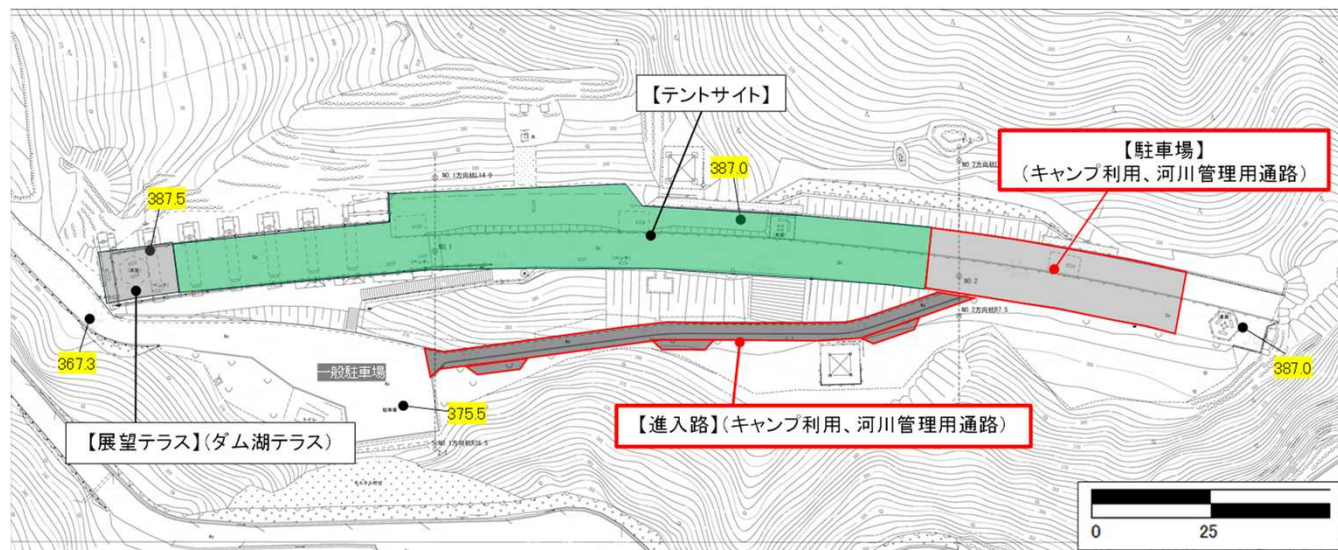


■ダムエリア 整備・利用イメージ

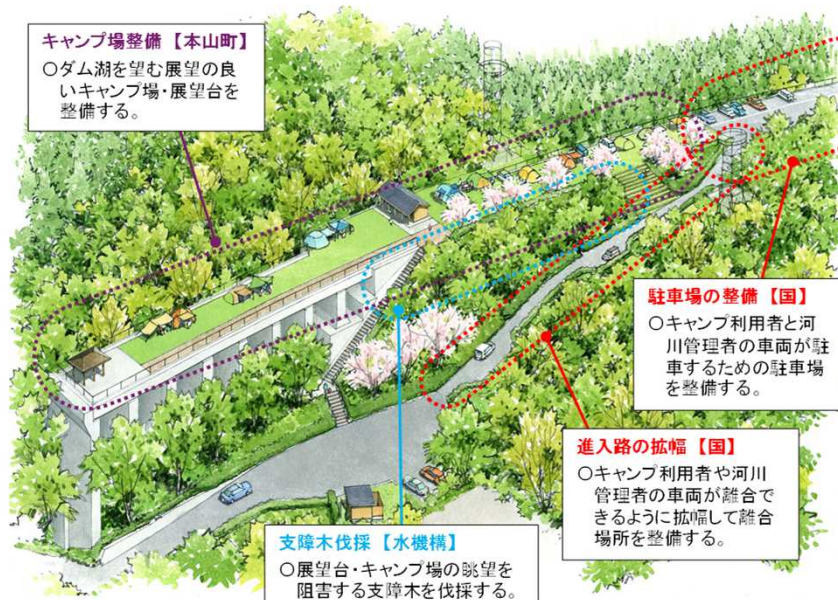


早明浦ダム周辺地区かわまちづくり計画（二期）（ハード整備）

【左岸展望キャンプ場 整備平面図】



【ハード整備のイメージ】



早明浦ダム周辺地区かわまちづくり計画（二期）（ハード整備）

【レイクタウンエリアの水辺整備】

名称など	整備内容	ハード整備と実施主体
カヌーの選手育成、合宿誘致	○カヌーアカデミーにより有望選手の育成を行う。 ○カヌー合宿の受け入れ態勢を構築する。 ○カヌー競技・カヌー合宿を誘致するための練習スペースを確保する。	【国】：広場整備（観覧場所など）
カヌー競技大会の開催	○スプリント競技会・記録会などを開催する。 ○新しいカヌー競技・「カヌーマラソン」を導入し、大会を開催する。 ○大会などの開催に必要な湖岸広場を整備する。	
ダム湖のレジャー利用の拡大	○カヌーを多様に楽しめるプログラムを提供する。 ○初心者が気軽に親しめるカヌー体験会を開催する。 ○多くの利用者が体験するための準備・指導のヤードを確保する。	
キャンプ場の充実	○様々なニーズに応えるキャンプ場に拡張する。 ○宿泊滞在利用を促す選択肢の多い宿泊機能を提供する。	【土佐町】：キャンプ場拡張

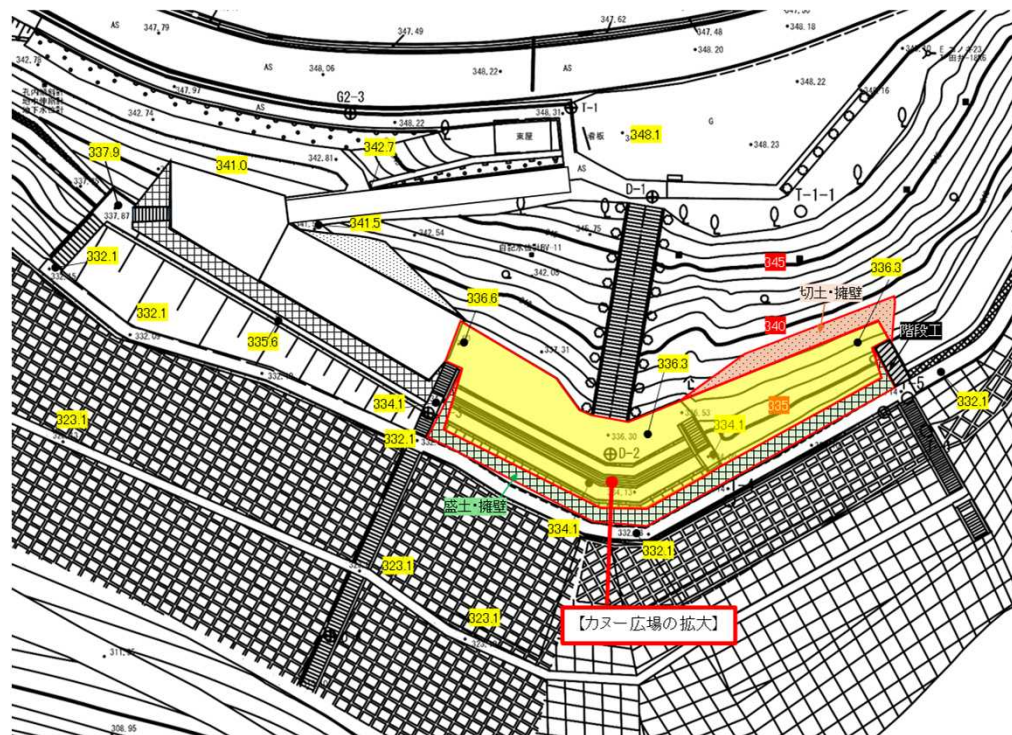


■レイクタウンエリア 整備・利用イメージ

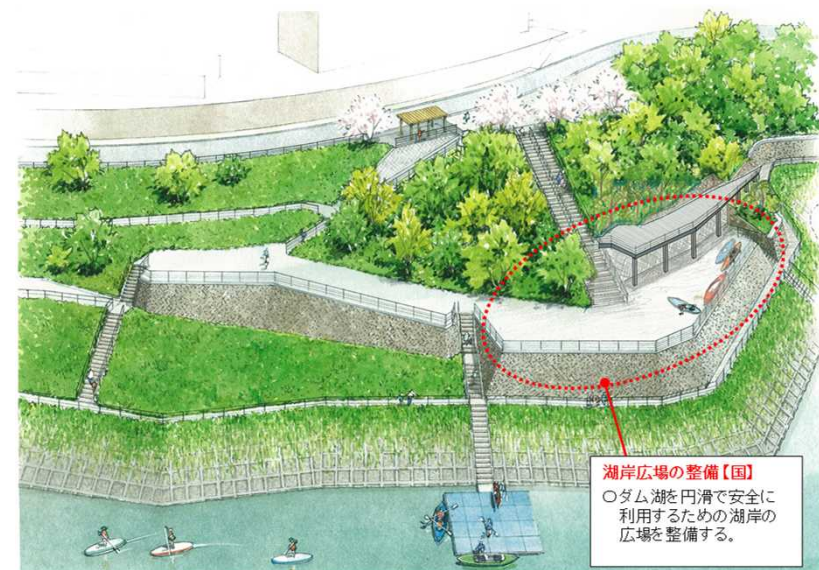


早明浦ダム周辺地区かわまちづくり計画（二期）（ハード整備）

【湖岸広場 整備平面図】



【ハード整備のイメージ】



■レイクタウンエリア 整備・利用イメージ



ダム湖のレジャー



カヌー競技大会



カヌー合宿

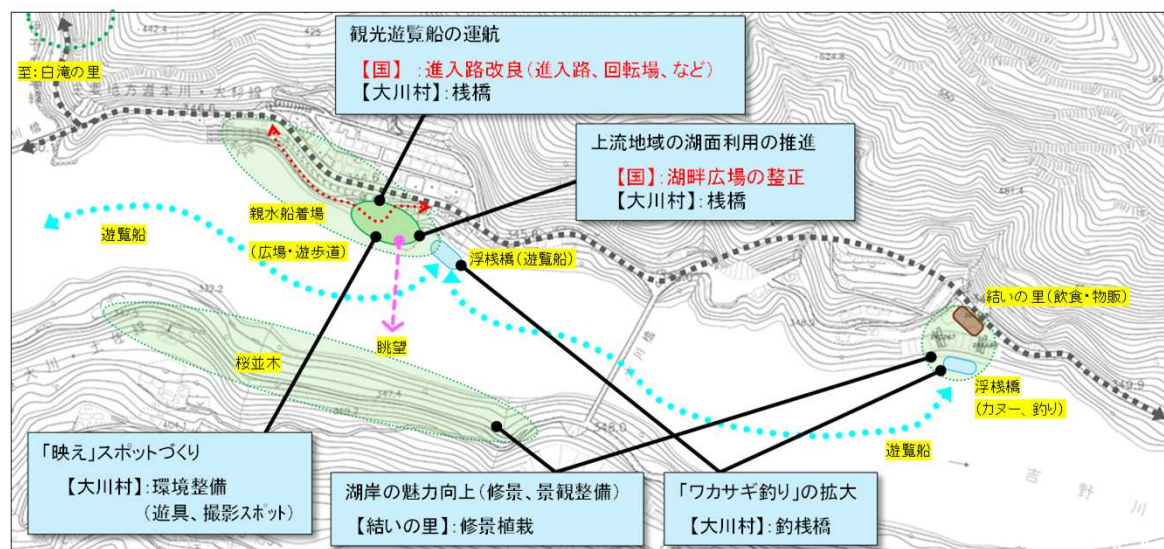


カヌー体験学習

早明浦ダム周辺地区かわまちづくり計画（二期）（ハード整備）

【村の駅エリアの水辺整備】

名称など	整備内容	ハード整備と実施主体
観光遊覧船の運航	○土日などに観光遊覧船を定期運航するための棧橋を整備する。 ○観光遊覧船の定期運航が可能なように水位低下時に使えるように進入路を改良する。 ○遊覧船を緊急時などに短時間で安全に搬出・搬入するための牽引車の回転場や緊急時の仮保管場所等に利用できるように坂路などを拡幅改良する。	【国】：進入路改良 （進入路、回転場など） 【大川村】：棧橋
上流地域の湖面利用の推進	○湖面へのアプローチや湖岸の広場を活用して上流域における湖面利用の拠点を整備する。 ○釣り、カヌー、ボート、SUPなどの観光利用や、イベント開催などに有効に活用する。 ○湖面利用に際して、水面へのアプローチ階段の延長、水辺の広場の整正、棧橋の整備を行う。	【国】：湖畔広場の整正 【大川村】：棧橋
「ワカサギ釣り」の拡大	○釣り棧橋からの安全で容易なワカサギ釣りを拡大する。 ○ワカサギ釣りなどに必要な釣り棧橋を整備する。	【大川村】：釣り棧橋
湖岸の魅力向上（修景、景観整備）	○景観を向上させる修景木（桜など）を植栽する。 ○結いの里の斜面を花木植栽で修景する。	【結いの里】：修景植栽
「映え」スポットづくり	○若い女性やカップルなどの利用を発掘するために、写真撮影の「映えスポット」整備や「恋人の聖地」登録などを行う。 ○さめうら湖に架かるデザインの異なる橋を撮影スポットとして紹介する。 ○観光遊覧船の運航と連携し、上流域にも写真撮影の「映えスポット」を拡大する。	【大川村】：環境整備 （遊具、撮影スポット）

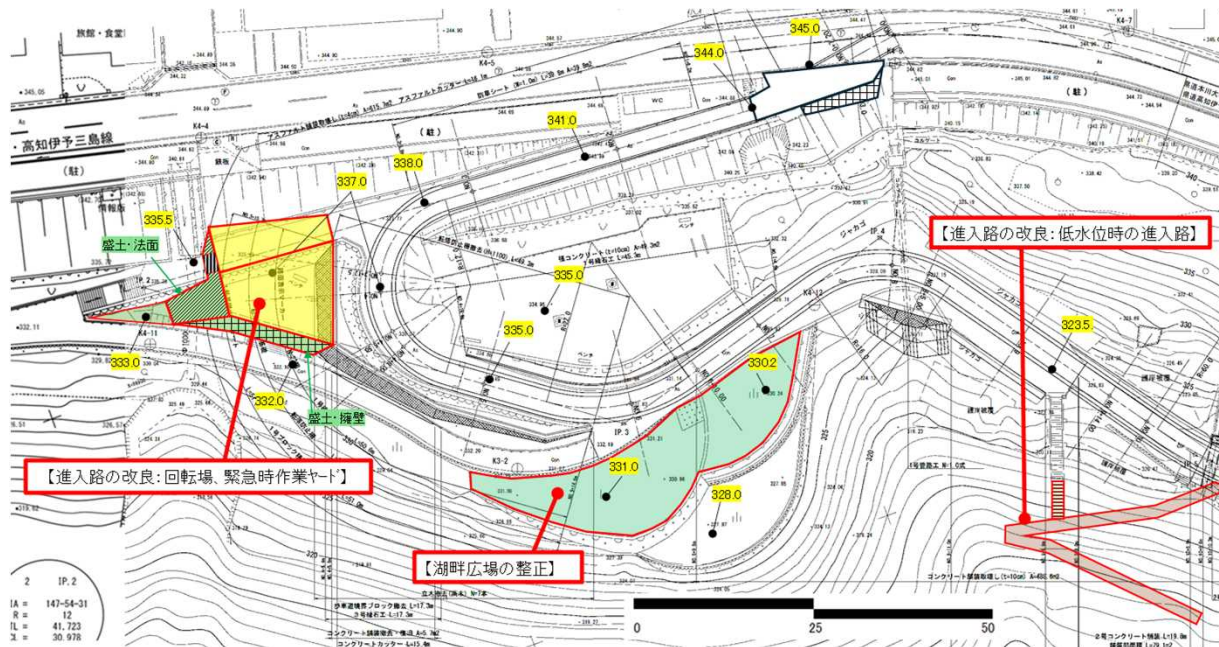


■村の駅エリア 整備・利用イメージ



早明浦ダム周辺地区かわまちづくり計画（二期）（ハード整備）

【大川村役場前 整備平面図】



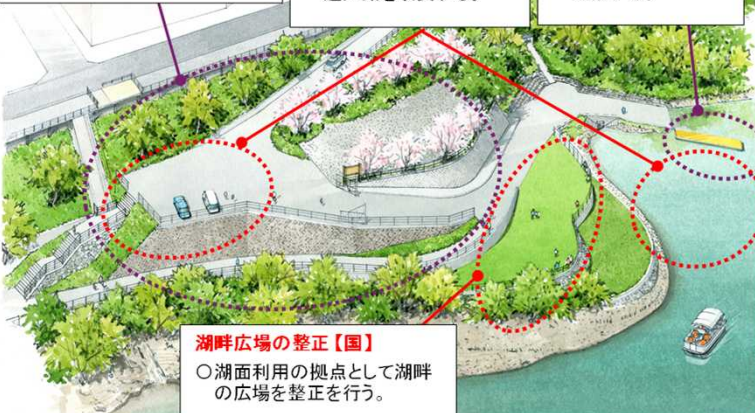
■村の駅エリア 整備・利用イメージ



修景植栽・環境整備【大川村】
○湖岸の魅力を高める修景植栽、環境整備を行う。

進入路の改良【国】
○船舶搬入出時の回転場や緊急時の作業ヤード、進入路を改良する。

栈橋整備【大川村】
○湖面利用のための栈橋、係留施設を整備する。



【ハード整備のイメージ】

早明浦ダム周辺地区かわまちづくり計画（二期）（ハード整備）

【災害時の水上動線の利用】

- 大川村は大半が急峻な山岳地系にあり、豪雨時には土砂崩れなどのリスクが高く、H16年の早明浦豪雨時には多くの箇所道路が寸断され、大川村の東部が孤立した実績がある。
- このため、災害時に湖岸道路が寸断され大川村が孤立した場合に、水上動線を利用して周辺の自治体との連携や住民の避難を可能とする。
- ソフト面では、災害時の水上輸送協力に関する協定書を大川村とNPOで取り交している。
- ハード面として、大川村役場付近と下流の土佐町のカーヌーテラス前（既設進入路）を水上動線で結ぶために、大川村役場前の進入路を改良する。



期待できる地域活性化の効果

【かわまちづくり計画（二期）の施策メニュー】

『ダムエリア』(本計画のコア)

■利活用方針:『ダムツーリズムの拠点づくり』

■ソフト計画

- ・堤体、ダム湖を眼下に望む左岸展望キャンプの整備・運営
- ・ダム堤体のインフラツーリズム(工事中・完成後)
- ・右岸ダムサイト広場を活かしたダム見学・観光交流
- ・堤体下流の広場の活用: イベント、川下りカヌー、ラフティング

■ハード整備

- ・展望キャンプ場の整備(テントサイト、展望台、駐車場、等)
- ・右岸広場現況復旧、ダム下流吉野川沿川樹木伐採
- ・下流吉野川利用施設の整備

『村の駅エリア』(本計画のコア)

■利活用方針:『ダム湖を活かした上流地域の活性化』

■ソフト計画

- ・ダム湖の観光遊覧船の定期運航(周遊航路)
- ・上流地域の湖面利用の推進(船着場、釣場、湖上動線)
- ・「白滝の里」と連携した宿泊・飲食・体験の運営
- ・湖岸の魅力の向上(修景、景観整備)

■ハード整備

- ・進入路改良、係留施設、棧橋、水辺広場、修景植栽

『岸の道』(湖岸動線)

■利活用方針:『湖岸道路の有効利用』

■ソフト計画

- ・湖岸道路でのサイクリング、イベント開催
- ・ダム湖を望む湖畔の散策、トレッキング
- ・湖岸道路の観光利用、景観整備

■ハード整備

- ・道路修景整備
- ・眺望スポット、駐車スペース

『レイクタウンエリア』(本計画のコア)

■利活用方針:『ダム湖のスポーツ・観光利用』

■ソフト計画

- ・スポーツツーリズム、スポーツまちづくりの推進
- ・多様な湖面利用の拡大(レジャー、競技会・大会誘致、合宿)
- ・多様な体験ができるキャンプ場の充実

■ハード整備

- ・湖岸広場、観覧場所、テントパーク拡張

『湖の道』(水上動線)

■利活用方針:『水上利用の充実』

■ソフト計画

- ・緊急時の水上輸送動線
- ・湖面利用の安全指導やルールづくり

■ハード整備

- ・棧橋、湖岸広場

『ダム周辺地域の連携』(全域)

■利活用方針:『周辺地域の連携・協働』

■ソフト計画

- ・観光情報発信の連携
- ・協働・連携イベント
- ・周遊、連携ツアー造成
- ・上下流の交流(水源地域・受益地域)

【期待できる効果】

○地域の賑わいが向上します。

現かわまちづくり計画の取組によって、早明浦ダム周辺において様々な利活用が進められていますが、更に水辺・湖面の利用を安全かつ快適にするためのハード整備・ソフト施策を行うことで、より多くの人々にダム湖のアクティビティを提供し、ダム湖周辺の賑わいを更に高めます。

○地元が進めるカヌーのまちづくりに貢献します。

本山町と土佐町が協働で取り組む「カヌーのまち嶺北推進事業」や土佐町の「スポーツ・健康まちづくり計画」では、さめうら湖や下流吉野川を活用したカヌーによる教育学習・健康福祉・人材育成・観光交流などの多様な取組が進められており、次期かわまちづくり計画によってダム湖・下流吉野川の利活用を活発にすることで、「カヌーによるまちづくり」に貢献します。

○宿泊滞在型の交流活動が増加します。

さめうら湖周辺でのキャンプ場の整備や既存の宿泊体験施設等と連携した体験・交流プログラムの展開等により、日帰り利用主体から宿泊滞在型の交流活動を増やします。これによって観光消費、地域製品の販売などの経済効果が期待されます。

かわまちづくり事業（二期）の実施主体

【ハード整備の実施主体・役割分担】

エリア	種 別	整備内容	整備主体
ダムエリア	左岸キャンプ場	キャンプ場	本山町
		進入路拡幅	国土交通省
		支障木伐採	水資源機構
	右岸広場	現況復旧	水資源機構
	下流吉野川	樹木伐採	高知県
		河川利用施設の整備	本山町
レイクタウン エリア	水辺整備	水辺広場整備	国土交通省
	テントパーク	キャンプ場拡張	土佐町
村の駅エリア	水辺整備 (遊覧船運航、 湖面利用)	進入路改良	国土交通省
		階段整備	国土交通省
		湖畔広場整正	国土交通省
		栈橋	大川村
	湖岸修景	撮影スポット、環境整備	大川村

【維持管理の役割分担】

維持管理の基本方針

- 維持補修・大規模修繕
 - ・必要が生じた折に、その都度協議で決定する。
- 日常管理・清掃などの維持管理
 - ・各施策の実施主体、利用主体が日常管理を行う。
 - ・既往の自治体との管理協定を今後も継続する。

エリア	種 別	整備施設	管理主体
ダムエリア	左岸キャンプ場	キャンプ場	本山町
		進入路、駐車場	本山町
	右岸広場	右岸広場	土佐町
	下流吉野川	河川利用施設	本山町
レイクタウン エリア	水辺整備	水辺広場	土佐町
	テントパーク	キャンプ場	土佐町
村の駅 エリア	水辺整備 (遊覧船運航、 湖面利用)	進入路・階段	大川村
		湖畔広場	大川村
		栈橋	大川村
	湖岸修景	遊具、撮影スポットなど	大川村

かわまちづくり事業（二期）の実現化の取組

【各実施主体の取組状況・実効性】

【ダムエリア】

- 本山町が、左岸展望台のキャンプ場整備計画を策定し、事業主体として整備する方針である。
- 当事業による進入路整備（国）や支障木伐採（水機構）によって、キャンプ場としての利活用が可能となる。
- ダム堤体右岸の広場は、早明浦ダム再生事業において工事ヤードに使用されており、工事完了時（R10年度末）には水機構によって現況復旧される予定である。

【レイクタウンエリア】

- （一社）土佐町スポーツコミッションなどが、既往の整備区域を活用してカヌーなどのアクティビティ体験やカヌーアカデミーの練習会場に日常的に利用している。
- 当事業による広場整備（国）によって、更に安全で使いやすくなり、活発な水辺利用が可能となる。
- 土佐町が、「さめうら森林公園」を再整備（第一次整備）し、令和4年度から「テントパーク」として運営しており、令和6年度から第二次整備が予定されている。

【村の駅エリア】

- 村の駅エリアを発着場所として、（一社）大川村ふるさとむら公社が観光遊覧船を定期運航している。
- 当事業による坂路改良（国）、広場整正（国）、栈橋整備（大川村）などによって、より安全な遊覧船の定期運航や、快適な水辺利用が可能となる。
- 宝くじ社会貢献広報事業で、湖岸沿いの桜植栽が行われ、今後も村の駅・結いの里の湖岸斜面の修景植栽を、結いの里運営協議会が行う予定である。

【河川空間のオープン化について】

- さめうら湖の利用やダム下流吉野川の利用が、さらに拡大・活発化する過程において、民間事業者や各団体が自由使用の範疇を超えて、河川敷を占用して営業活動に利用する要望が高まることも想定される。例えば、湖面利用・河川利用の拠点において、飲食物販のキッチンカーの営業等の可能性が考えられる。
- この場合には、民間事業者による営業活動を可能とするために、河川空間のオープン化に向けた検討を行うものとし、河川敷地占用許可準則第22条に基づく「都市・地域再生等利用区域」の指定を受けるための協議・調整を「早明浦ダム周辺水辺利活用促進協議会」等において議論し、河川敷地の適正な利用を図る。

施策展開における配慮事項

安全な河川利用に向けた取組

【河川利用者に対する安全面の指導】

- 実際にダム湖、河川での活動の実働を担う、民間事業者や地元団体がダム湖、河川での安全に係わる技術や知識を習得するように指導します。
- 地域での活動が盛んなカヌー等のアクティビティ事業者と協力しながら、かわまちづくり整備箇所を利用する団体等に対して、河川利用に関する民間の様々な安全資格（日本レクリエーションカヌー協会公認指導員やRACトレーナー等）の取得や河川利用時の啓発活動を推進します。
- ライフジャケットやスローロープなど安全確保のために必要な機材の整備を指導します。

【湖面利用の安全利用ルールの周知・改定】

- 「さめうら湖協議会」において定めた「早明浦ダム湖面利用規則」を、ダム管理者、NPO団体、湖面利用事業者などが協力して湖面の利用者に周知します。
- 今後の湖面利用の拡大などに応じて、安全・快適に利用するためのルールへ必要に応じた改定を行います。
- ダム湖やダム下流の吉野川の利用に際しての安全管理に活用可能なダム管理情報（気象情報、水位情報、放流量情報等）を、水資源機構池田総合管理者のWEBサイトなどを通じて迅速で必要情報が得やすいように情報を発信します。

【湖面の安全利用に関する取組】

- 湖面利用に際して、安全管理の指導と装備の装着を行うための広場の確保や、安全に湖面にアプローチするための進入路などを改良します。
- 舟運事業において、洪水時などに安全を確保しつつ、緊急に船舶の搬出ができるように進入路などを改良します。
- 地震・自然災害などによる湖岸道路の閉鎖時の代替輸送手段として、ダム湖を活かした水上動線を安全性を確保しつつ、円滑に運用するために、ダム湖面への進入路を改良します。

施策展開における配慮事項

生物の生息・生育・繁殖の場の保全・創出に関する取組

【重要種等の生育・生息環境の保全】

○ダム湖に生息するワカサギ等の有用魚種の生息状況などを把握しつつ、ハード整備にあたっては、生態系などへの影響を与えないように、水際などのエコトーンや産卵環境などのハビタットの改変を避けるとともに、陸域においても重要種などの生育・生息環境を保全する。

【協働による自然生態系の保全活動】

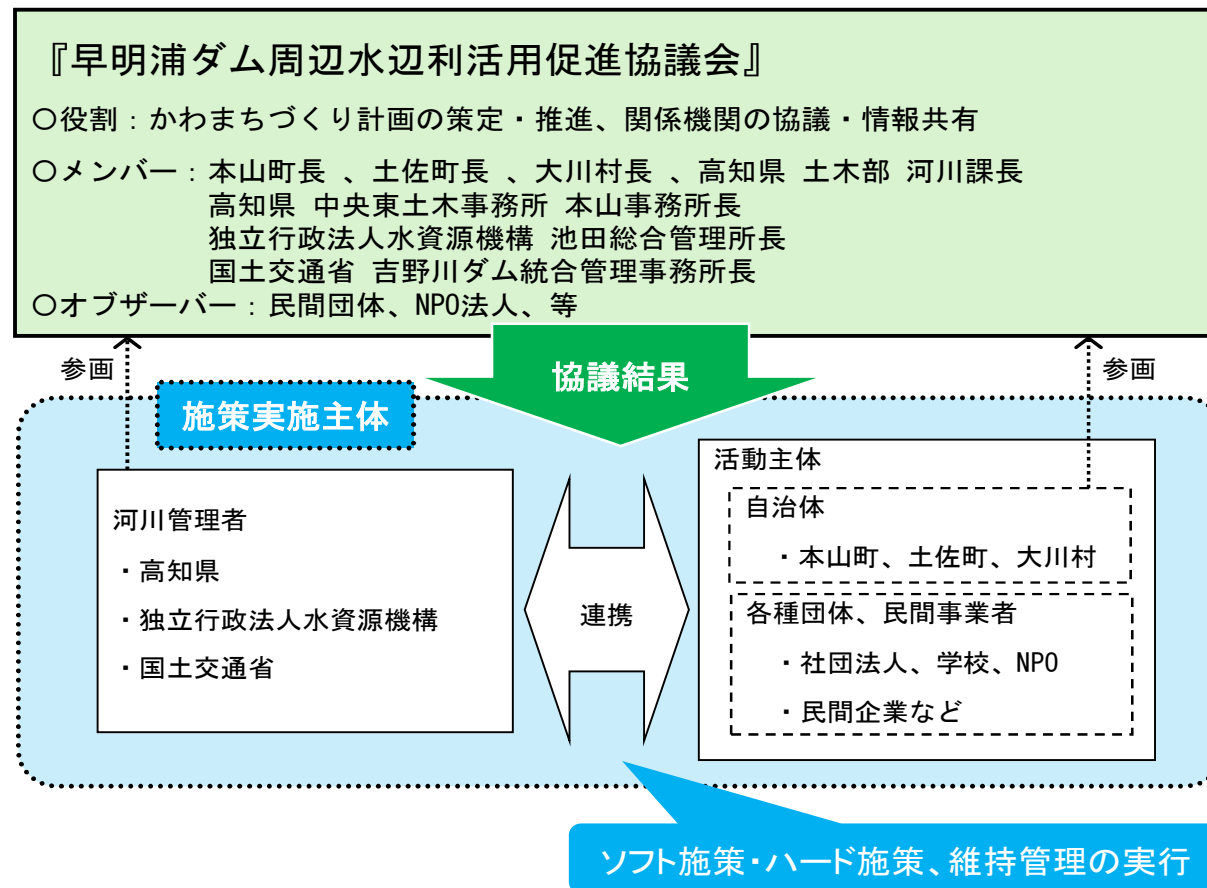
○早明浦ダムの水源地域の生態系保全や水源涵養の役割を担う水源林の保全・再生に向けて、下流利水地域の住民や自治体と水源地域の住民・自治体、ダム管理者などが連携しながら、水源に広がる森林の下草刈りや植樹などの保全・育成に取り組んでおり、今後更なる上下流交流の拡大が期待されることから、様々なイベント等を通じて保全活動を継続する。

【上下流連携による水源の保全・育成】

○早明浦ダムが立地する本山町、土佐町と利水者の高松市が水源の保全や林業振興に取り組むための一般社団法人「もりとみず基金」が令和6年1月18日に設立された。今後は、同基金によって、水源林などの保全・育成などに関する様々な取組が進められる。

継続的な利用を図っていくための取組や推進体制

- 「早明浦ダム周辺水辺利活用協議会」において、地元自治体・河川管理者が協働で「かわまちづくり計画」の実行を推進するとともに、計画の円滑な推進や施設の適切な維持管理などに必要な協議・情報共有を行う。下部組織の幹事会においては、必要に応じて、民間団体やNPO法人等の意見を求める。
- 協議会の結果を踏まえ、ソフト施策、ハード施策の実施主体となる自治体、河川管理者、各種団体、民間事業者などが、かわまちづくり計画の役割分担に応じて、各種施策や維持管理を実行する。
- 各種施策や維持管理の実行の際には、自治体、河川管理者、各種団体、民間事業者などが連携しつつ、円滑に実行する。



「早明浦ダム周辺地区かわまちづくり（二期）」のスケジュール

○現かわまちづくり計画は、令和3年度末に登録され、関係自治体や民間の連携のもとに様々なソフト施策、ハード整備を実施中。
令和7年度整備完了予定。

○現かわまちづくり計画を令和7年度に変更して、令和8年度から二期計画としてスタートするために令和5年度から取組を実施

○令和6年度に、ダム湖などを活用する団体などを交えたワーキンググループで意見交換を行い、「早明浦ダム周辺利活用促進協議会」において、かわまちづくり計画（二期）を策定し、令和7年度に変更登録。令和8年度から二期計画による整備をスタート。

